

第 135 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：平成 28 年 8 月 26 日（金） 13：30～16：03

場 所：中央図書館 2 階多目的第 1 ホール

出席者：石本教育長 藤本委員 宇津委員 金本委員 花田委員

事務局 山本部長 佐々木課長 森脇課長 岡田室長

山根課長 島田館長 長見所長 渡邊課長 村瀧室長

大崎分室長 栗栖分室長 森下分室長 吉野分室長

書記：小林係長 日ノ原主任主事

議事

1 教育長報告

2 部長・課長等報告事項

3 議題

(1) 教育委員会自己点検・評価について

(2) 教育委員会学校訪問について

4 その他

(1) 運動会の日程について

1 教育長報告

石本教育長

長いと思っていた夏休みももう終わりに近づいており、中学校は既に始まっているところもある。まだ暑いですが 2 学期はスタートし、これもまた早いところは運動会に向けて準備を進めているといった状況であると聞いている。この夏休みの間教育委員会では、インターハイ体操大会があり、大会そのものは 8 月 2 日の夕方の開会式、3、4、5 日の 3 日間だったが、選手たちは 31 日から浜田に入っていて、31、1、2 日に練習を浜田ですということ、教育委員会は 30 日からもうずっと慌しかったが、何とか無事に終わった。色々なところから本当に良い大会だった、対応していただいてありがとうございました、という様なメール等あり、職員は準備等本当に大変だったが、救われたというか、頑張って良かったという気持ちになった。委員方にも顔を出していただいて本当にお世話になった。ありがとうございました。

① 7 月 29 日（金）第 37 回文部科学大臣杯少年少女囲碁大会出場者市長表敬訪問

浜田の子どもが県の代表として参加をするということで市長へ表敬訪問があった。金城中学校1年の安達君、美川小学校6年の王君の2人が全国大会に出場した。2人とも予選リーグで優勝した子、準優勝した子とそれぞれ当たって、リーグの中でトップになることができずに決勝トーナメントには上がれなかったということだが、実力を十分発揮して力を示したと、付き添いで行かれた方からお聞きしたところである。

② 7月29日（金）2016 島根県人権教育夏期研修（三隅中央会館）

主催は県の人権教育研究協議会という学校の先生方、義務教育の先生、それから高校の先生方、そういった方が中心になって作っている協議会だが、その主催で研修会があった。三隅自治区の人権を考える集いと共催ということで地元の三隅の方もたくさん出席をしていただいて、全体で300人の方がお出かけになったということである。会場一杯になるほど集まった。講演が2つあり、資料にも書いてあるが、講演①で「ふるさとへのエール」ということで、講師の古川先生が邑南町出身で浜田もふるさとだということで、人権同和教育の流れ、歴史的なことについて歌を歌いながらご説明いただいた。非常に分かりやすい講演で、久しぶりに良い講演を聞いたなと思った。

それから講演の②「道祖本事件（1985年）から30年」。特に三隅の関係で、三隅出身の方が関わる結婚差別の事件だが、それが発生してから30年経ったということで近畿大学の先生が講演をされた。私は途中までしか聞いていなかったもので全体的なところは分からないが、地元でされるので少し地元のことも話されるのかと思ったら淡々と話され、もう少し詳しく聞きたかった様に思ったが、そういった人権の講演が開催された。

おそらく島根県の各地を回る研修なので8年に1回くらい浜田市に回ってくるかと思う。

③ 8月2日（火）～5日（金）平成28年度全国高校総体体操競技（県立体育館）

8月2日から5日は高校総体があった。先ほどお話をしたとおりである。全国の強豪といわれるチームは子どもの頃か

ら体操競技に取り組んでいる子どもたちばかりで、技等もオリンピック選手がするのと同じ様な技を披露してくれた。少し地方の子どもとの技の格差があるのかなと思ったが、しかしながら島根県代表として出た浜田高校は男女とも一生懸命頑張った。それぞれ持てる力を十分発揮してくれたと思う。これを契機にまた小学校、それから中学校の子どもたちが体操に取り組み、また体操浜田というのが復活していけばと思う。

④ 8月10日(水) 浜田市教育研究会教育講演会(県立大学講堂)

最初の開会だけ顔を出して、その後すぐに松江に行ったので、菊池先生のお話を聞くことができずに大変残念に思っている。昨年も菊池先生をお呼びして講演会をする予定だったが、台風で流れてしまって中止ということがあった。ぜひ菊池先生の話を知りたいという教育研究会の強い思いがあり今年実現したというわけだが、資料にもある様に「学級づくりで大切にすること」という演題でお話をされた様である。テレビなどにも出ておられる有名な教育研究家の先生だが、元々は学校の先生である。私も事前に色々と資料等見させていただいたが、「褒め言葉のシャワー」という言葉を前から色々と聞いていた。それから話し合いの授業を重視されており、その話し合いの中から新しい気づきや発見、そういったものを掴みながら成長、自立をしていくのだといった様な話であったのではないかと思う。

⑤ 8月17日(水) 教職員を対象としたふるさと郷育研修会(大浦の浜)

昨年から実施をしており、昨年は三隅の中央会館で石州半紙の話をして西田さんからお聞きをして、そのあと紙すき体験をした。漁業の関係の方にも来ていただいて、浜田の中心の産業となる漁業、水産業のお話をさせていただいた。

今年は2回目だったが自然体験をしてもらおうということで、大浦の浜でカヌーの体験活動、そういったものに取り組んだ。教職員は全員ということではなく、いわゆる今年転勤で、異動で他市から浜田市に来られた先生を基本的には対象とし、それからあとはこういったことに非常に興味のある方といった2つの対象を掲げて募集したが、今年は22人の

方が参加された様である。今年異動で来られた方が 20 人、特に関心があって参加した方が 2 人、そういう参加があった。

⑥ 8 月 18 日（木）平成 28 年度ふれあいフォーラム（石央文化ホール）

私は欠席させていただいたが、今年もふれあいフォーラムが石央文化ホールで開催された。人権同和問題に関する研修会だが、「絵本による生命の授業」ということで、絵本作家のこんのひとみさんの講演があった。

⑦ 8 月 19 日（金）福島県棚倉町訪問及び史跡等視察（棚倉町）

福島県棚倉町へ市長が訪問するというので、同行した。棚倉町というのは 14 代の浜田藩主が浜田から棚倉に転封になったということで浜田と関わりのある町である。松平周防守が浜田から棚倉藩に転封になって、そのあと幕末には川越にまた転封になり、明治を迎えたということである。松平周防守のゆかりの方々には初雁温知会というものを作っており、4 年に 1 回浜田へ墓参に帰られる。今年が 4 年に 1 回の年に当たっており、10 月 29 日に浜田へ帰ってこられるのにあわせて、開府 400 年のイベントを開くが、それにも参加をしていただく予定である。

そういった関係のある町を 1 度訪問しておこうという市長の思いがあり、訪問されたので同行させていただいた。

浜田と同じように城跡はあるが、城は現存せず、その城跡を国指定の史跡にするということで今発掘作業をしておられるところであった。他にも色々な史跡があって、15,000 人くらいの小さな町だが、江戸時代では最終的に 10 万石の城下町だったということで、人口は少ないがかなり歴史のある素敵な文化の香り高い町だなという気がしたところである。

⑧ 8 月 20 日（土）中高一貫校を考えるシンポジウム（県立大学コンベンションホール）

委員方にも出席いただいたが、中高一貫校を考えるシンポジウムが県大で開催された。中高一貫校がどういったものなのかということをも市民の皆さんに理解していただくために開いたシンポジウムである。市長の思いとしては浜田高校に併設の県立の中学校を設置して、浜田高校の魅力を高めて、

進学率を高め、学力を高めたいといった思いがある。今後市民の皆さん方、学校の先生方がどういった思いを持っておられて、実際にこれからこういったことができるのかどうかはこれからの検討の結果だと思っている。

また、浜田高校に併設ということだが県の事情を考えると、設置をするということであれば東部に1校、西部に1校という様な形になるのかなという気がしている。いずれにしても2、3年、5年後くらいにできる話ではないだろうと思う。校舎を増築するという、予算的なこともあるので、10年くらいの長いスパンで考える必要があるのではないかなと思う。

⑨ 8月21日（日）こども美術館まつり2016（世界こども美術館）

毎年2,000人くらいの方が来られる。今年も暑かったが朝早くから子ども連れの親子で賑わっていた。午後からは神楽をやっていたので一層人出が多くなった様に思う。

報告は以上だが、ここまでで質問等はあるか。

質疑応答

宇津委員

私は島根県の体育協会や浜田市の体操連盟に関わりを持ってるので、一言お礼を申し上げたいと思う。先のインターハイでは大変お世話になった。極めて高い評価をいただいたことをお伝えしたい。浜田市の職員、生涯学習課の皆さんのご協力に大変頭が下がる思いである。あわせて補助員として働いてくれた高校生の姿が非常に選手、あるいは役員の印象に残ったと伺っている。私も時々1階の昔の柔剣道室の前を行き来することがあったが、高校生が自分の出番が来るまでの間に教科書や参考書等を広げて勉強していた。この姿が人と接する時には真心をもって接してくれたのだろうな、それが接する方に感動を与えたのだろうと感じ、素晴らしい高校生の姿を見ることができた。本当にお世話になった。ありがとうございました。

石本教育長

中高一貫シンポジウムにはどのような感想を持たれたか。藤本委員にはたくさん質問していただいたが。

藤本委員

たくさん尋ねたいことはあったが、そうはいかないのでかいつまんで質問した。非常に思いは強いが、かなりのハードルがたくさんあるので、3年、5年の話では難しいかもしれない。や

はりこういうものを前提にした考え方をもっと深めていかなければいけないかなと思った。例えばメリットやデメリットが必ずあるはずなので、そのあたりも深めていかなければいけないと思う。

宇津委員

私は県立の中学校ということになると、浜田市の教育委員会がどこまで関わるができるのかなと思う。おそらく県の教育委員会の主導で動いていくはずなので、そのあたりがうまく連携されないと難しいことが出てくるのではないかと感じた。もっと島根県の教育委員会として、中高一貫校を2校なら2校設けるということで相当な覚悟を持って県教委もかかれないと成果も出てこないだろうと思う。時間を相当かける必要があると感じた。

どうしてもあの様な場面ではメリットの部分、この様な良いことがあったという様な面を強調されるが、おそらくそういう背景にはドロドロしたマイナス、負の部分もあったのではないかなと思う。そういったことはなかなか言及されなかったので、少し聞きたかった様に感じた。

金本委員

中高で働いている教職員からはあまり良い評価ではないのに、自分の子どもは中高一貫の学校に通わせていることが面白いと思った。それから中高の先生方が壁がある様に言われたので、個人的に質問をされていた様だが、あまり具体的なことは言われなかった様である。教職員の中では難しいところがあるのではないかと感じた。

保護者の方がどのくらいの割合で来られていたか分からないが、受け入れてもらうには温度差がある様に感じた。このような研修会やシンポジウムを何回も行う必要があると感じた。

石本教育長

詳しくはまた後ほど報告の中にアンケートの結果等も出てくるので、そこで説明をしたいと思います。

私が思ったのは、浜田高校を良くするというのは何となく分かったが、そうではなくて、これをやることによって浜田全体の中学校や小学校にどのような影響があるのか。メリット、デメリットを含めてどういった影響があるのか、市全体でどういう形になっていくのかというところをもう少し研究していただかなければいけないと感じた。

それではこの項はこれでよろしいか。

各委員

了解。

2 部長・課長等報告事項

山本部長

平成 28 年 9 月浜田市議会定例会 提出議題（資料 4）

9 月議会の定例会の提出議題について資料 4 である。教育文化振興事業団の経営状況について、例年 9 月議会において報告している。

補正予算（資料 5）

補正予算についても 9 月議会で報告している。まず原井小のプールの解体について。本来なら当初予算のところだが、急遽補正に載ったところである。原井小の跡地を土地開発公社が所有しているが、売却されるということで広報はまだ 9 月号に載るとのことである。面積にして 3,600 m²くらい。それに伴い、その隣にあるプールを解体して更地にするというのが 9 月議会での予算要求である。

それから債務負担だが、世界こども美術館と石正美術館の平成 29 年度から平成 31 年度までの債務負担行為になる。12 月議会において指名の議決を予定されている。

佐々木課長

行事等予定表（資料 6）

9 月末までの行事予定を載せている。早速明日土曜日に 3 つの事業が行われる。中国地区の小学生ソフトボール大会、囲碁大会、MOA 美術館の表彰式がある。

28 日にはご承知のとおり体育協会の 10 周年記念講演、星野仙一さんを講師に招いてということで、昼以降に予定されているところである。その他色々予定が入っているが、9 月 28 日に浜田市中学校駅伝競走大会がある。例年海浜公園で行われる駅伝だが、来月末に予定されている。

委員方に直接案内しているものが 8 月 28 日の講演と 9 月 8 日の少年の主張浜田大会である。9 月 8 日は議会の一般質問の 4 日目に当たるので、教育長は出席できないと思う。

資料にはないが 9 月 13 日、直接教育委員会の行事ではないが、今後のあり方広聴会が合同庁舎で行われる。広報に掲載されているが、13 日の 10 時から合同庁舎で広聴会が行われるということなので、一応ご報告させていただく。

岡田室長

浜田市中高一貫教育シンポジウム報告（資料 7）

先ほどお話していただいたが、8 月 20 日の 14 時から 17 時 10 分、県立大学の交流センターコンベンションホールで行っ

た。皆さんのご協力をいただいて何とか 170 名の参加者を得ることができたので、会そのものとしては形になったかと思う。

第 1 部の基調講演で制度的なことを鎌倉女子大学の高橋先生に説明していただいた。設置していない県がもう数県しかないといったお話をしていただいた。

第 2 部で事例報告を鎌倉女子大学と徳島県立富岡東中高等学校の先生方にしていただいたが、横浜市立南高等学校については市立の高校中学校ということと、子どもたちの数も多い地域なので、これがはたして本当に浜田市でできるのかという様なことを思ったが、色々な関係機関と連絡を取って体験型の授業を行っていたり、社会貢献活動の様なことも行っておられたりということで、グラフにもあったが子どもたちの全国学力調査の分布が右端にしかないという様な結果を見せられたが、少しあり得ないかなと思った。

事例報告の 2 として富岡東中学校・高等学校の報告を受けたが、私はこの規模が浜田市にも大変似ていて、しかしここは富岡西高等学校という普通高校もあり、それなのに西高校も進学校で成果を上げておられる。昔は西高校の方が有名だった様だが、東高校の方がだんだんと大学進学ということだけで見ていくと西高校を上回っているということで自信を持って発表していただいた。

最後にパネリストを 2 校の方々とコーディネーターに市長でシンポジウムをしたが、先ほど宇津委員からも言っていただいた様に良い面が強調される様な流れだったが、一応前向きにという形で進められた。質疑応答で藤本委員にもたくさん質問していただき、前室長の滝本先生にも会場の皆さんがよくわかる様な質問をしていただいた。その中で出た懸念の中だるみということが、他の聞いておられた方の中にも中だるみをするということについて懸念を持っておられる方がおられた。アンケートの結果として資料の下のところに載せているが、教職員がやはり反対が多い、ただ全体的な様子を見ていただくと分かる様に概ね賛成という意見が大変多かったので、次へのステップ、色々な説明をする機会等も作っていないといけない。まだ全く決定はしていないが、このことについてもあのシンポジウムの流れでは反対の意見はなかな

か書きにくいと言われた方もおられたが、あれを聞いた後に書いてもらったアンケートでは概ね賛成というところが非常に多かった。

石本教育長

下のグラフで1番色の濃い左から2番目がどちらかといえは賛成ということか。

岡田室長

そうである。1番左が賛成である。左側2つを見ていただくと、教職員が54%賛成、公務員が77%、会社員は88%。パーセントなので人数ではないが、自営業が80%、学生はわずかだが75%という形であった。

石本教育長

どちらかといえは賛成というのは懸念はあるがどちらかといえは賛成ということか。

岡田室長

そうである。

山根課長

「浜田市の人物読本 ふるさとの50人」活用状況（資料8）

3月に各小学校・中学校にお配りした「浜田市の人物読本ふるさとの50人」の活用状況について学校にアンケートをしてとりまとめをした。7月の段階のとりまとめである。またこれからもあと2回くらい年度末までアンケートをさせていただく予定である。活用の仕方だが、資料に載せているように社会・国語とか、それぞれの人や業績に応じた関係で活用の科目が違うということである。特に道徳では愛国心、郷土愛、向上心の資料として活用されている。朝の自習の時にも読書や読み聞かせで活用されている。

松原小学校では読書ノートで「家読カード」に書く活動を実施しているという特徴があった。石見小学校ではオリンピックもあるので、オリンピックに出場した人クイズ等もしていたということである。

活用人物については学校数で数字が出ている。オリンピックの影響で竹本正男さんや上迫忠夫さんの数が多くなっている状況である。

裏面には人物の学年別の活用状況ということで名前を記載している。

添付資料として長浜小学校の学級通信の「輝き」で、実際の石碑がある所なども調査をされた様である。三隅小学校の感想の中では、「最後の瞬間まで紙を漉くというエピソードにとっても感動を示している様子だった」とか、「浜田にはたくさんの方名がおられること、三隅の名人も載っていることに驚いてい

る」という様な感想を載せてもらっている。

4、5、6年生の特別支援学級では話に興味はあるものの文章や内容が少し難しそうだったという感想をいただいている。

平成28年度全国高等学校総合体育大会 体操競技(資料9)

先ほど教育長や宇津委員からもあったが、8月2日の開会式から3日、4日が予選、5日が決勝ということで開催され、たくさんの方々が来場された。大会の結果で申すと、男子団体では市立船橋、清風、鯖江。女子団体では戸田翔陽、東京学館、日本大学。男子個人では市立船橋、清風。女子個人では戸田翔陽、日本大学、東京学館と上位を占めている。浜田高校は男子が予選で41位、女子が予選で29位ということで健闘された。

来場者の状況だが3日予選1日目には1,900人、2日目は2,000人、最終日の決勝には3,000人が延べ人数ということでカウントしている。この中には選手・監督も含まれている。同時に開催した竹本正男さんの展示も、入り口に展示したということもあり3日間で2,200人が観覧されたということで数字を挙げている。

宇津委員、教育長にも優勝カップの返還、それから授与について開会式・閉会式でお願いをしたところである。これには教育委員会の職員をはじめ、市役所の職員延べ200人近い職員に応援していただき、先ほどもあったが、それぞれ全国の高校からお礼のメールなり葉書などが届いている。大変お世話になった。ありがとうございました。

石本教育長

資料があるところについては報告いただいたが、資料4から資料9までのところで質問等はあるか。

質疑応答

石本教育長

資料6の日程だが、9月28日の駅伝は9時30分からか。もっと早い気がする。競技開始が9時30分で、それまでに開会式等があると思う。

花田委員

昨年、この時間には開会式が終わっていた。

佐々木課長

一覧では開会式が9時30分になっているが、まだ正式な案内がきていない。

石本教育長

正式な案内が来たら、確認してほしい。

それから9月8日の少年の主張浜田大会、当日私がおりませ

藤本委員	<p>るので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>資料8について。ふるさとの50人という冊子を出され、その活用状況ということだが、これの授業は社会科の授業か。活用人物に50人いないので、どういった活用をしているのかと思った。</p>
石本教育長	<p>色々な授業で使われている。</p>
山根課長	<p>それぞれの業績で分野が違ふと思うので、色々な授業で活用されている。</p>
石本教育長	<p>学期毎にアンケートをすると聞いているが来年以降はどうするのか。</p>
山根課長	<p>今年は最初なので3回行うが、来年度からは1回くらいを予定している。校長先生から多いと言われている。</p>
石本教育長	<p>市長からはどういった使い方をしたか報告をしてほしいと言われている。</p>
山根課長	<p>今回も報告させていただいた。</p>
金本委員	<p>図書館にも置いてあるか。</p>
山根課長	<p>置いてある。</p>
石本教育長	<p>図書館、各学校の図書室に置いている。市内の書店でも販売しているが、この前在庫がだいぶ減っていたみたいだが、少なくなったらまたくださいという連絡は書店からあるか。</p>
山根課長	<p>連絡はある。</p>
石本教育長	<p>その他に質問等はあるか。</p>
委員方	<p>特になし。</p>
石本教育長	<p>その他資料がないところで報告はあるか。</p>
各課長	<p>特になし。</p>

3 議題

(1) 教育委員会自己点検・評価について(資料1)

小林係長	<p>自己点検・評価について資料1、2がある。資料1は委員方に事前にお送りしている。資料2については総括である。それぞれ各事業を受けて総括評価ということでまとめを記載しているので、この会議中、それ以降でお気づきの点があればご意見をいただけたらと思うのでよろしくお願ひしたい。今年度が前回はまだ子プランの最終の計画期間となっており、それぞれの事業の1番下の教育委員会の評価というのが計画期間の5年間を含めた総括評価という考え方で記載している。例年だと年度の評価とい</p>
------	---

うことにしているが、今回は総括評価ということで記載している。こちらについても事務局で記載をしているが、委員方が思われたことをまたご意見いただけたらと思う。

石本教育長 事前にお配りしているので、一応目を通していただいたということで、特にお気付きの点等があればそれぞれご指摘いただくという進め方でよろしいか。

委員方 了解。

石本教育長 実際の評価表があるところ、右上に No. 1 と書いてある所があるが、そこから 49 まであるが 1 つずつ確認していきたいと思う。まず No. 1、事業名「自然に感動する心・ふるさとを愛する心を育てる教育の推進」、ここでは何かあるか。

藤本委員 No. 1 から No. 4 までやろう。

石本教育長 まとめてやるか。

藤本委員 事前には資料をいただいたので、自分なりに目通しをして整理してきている。No. 1 から No. 49 まで 1 つずつやっていると時間がかかるので。

石本教育長 それではお気付きの項目だけを取り上げるということではよろしいか。

藤本委員 No. 1 から No. 10 までとするか。

石本教育長 それでは 10 項目ずつ進めていくか。
大項目の 1 で中項目の (1) (2) が No. 12 の所までなので、No. 12 まででお気付きの点、ご指摘はあるか。

宇津委員 No. 3 について。教育委員会の評価の 2 行目の字句“に”はいらない。

金本委員 この事業そのものはどういう事業なのか。

森脇課長 ここに書いてある様に赤ちゃんを連れてきていただける保護者の数が限られているので、そうすると例えば小規模校でないとできないとか、一中だと何回に分けてやるかとかということを考えるとなかなか実施が難しい。また、その小規模校においては自分の所では何回もしないといけないとなると大変だということもあり、そのやり方は考えていかないとこのままのやり方は難しいと考えている。

石本教育長 赤ちゃん登校日事業は議員方から非常に高い評価をいただいていたが、学校現場の先生方からは全面的に評価をいただいていたわけではなく、準備が大変だったり、あの時間だけでなく、90 分の時間をするために前後の時間がすごく要る。そういったこと

で負担感がすごくあり、それに対する効果がどれ位あるか等色々と考えた上で現場としてはこの事業はできれば止めていただきたいという方向に実はなっている。高塚先生ももう鳥取大学を辞められて忙しい身になっているので、中々対応が難しい気がしており、当面新しい教育振興計画に変わった時にはたぶんなくなる事業なので、このまま終わると思う。

金本委員
小林係長

違うコミュニケーション能力の講座をやるのか。

コミュニケーション講座については評価が高かったが、27年度は実施しなかったというのはなぜか。

森脇課長
小林係長
森脇課長
佐々木課長

この方ならという講師を選ぶことに難航した。

三上先生とは違う方を選ぶ予定だったということか。

三上先生か高塚先生か、どちらにしても難しい状況だった。

26年度は高塚先生だった。27年度も高塚先生でという話もあったが、三上先生にお願いするかという事でどっちつかずになった。

石本教育長
森脇課長

新しい計画ではコミュニケーション講座は続けるのか。

そういったものはいるのだろうけど、高塚先生の講座ということにはならないと思う。

石本教育長

上の大きな表題は赤ちゃん登校日事業だが、その中で2つに分かれていたが、とりあえずこれは5年間の評価なのでこういったことで検討する必要があるが、今のところ近年はやっていなかった。方向性は今後詰めていく。とりあえず赤ちゃん登校日事業はなくなる。

金本委員

細かいことだが内容のところで、「生後4箇月」の「箇」は難しい漢字を使うのか。

石本教育長
小林係長

他にも色々出てくると思うが統一しなければならない。

通常は平仮名の「か」であるか、漢字はこの「箇」を用いる。「ヶ」は用いない。

石本教育長
小林係長

平仮名の「か」の方がやわらかくて分かりやすい。

表記は統一する。

石本教育長
宇津委員

事務局で決めておいてほしい。

No.8について。教育委員会の評価の3つ目の「知・徳・体を完成させるために」となっているが、「知・徳・体を完成」というところが少し引かかる。「知・徳・体の調和のとれた子どもを育成するため」に変えた方が良いのではないか。

石本教育長

「学力調査を行う意義や知・徳・体の調和のとれた子どもを育

森脇課長
石本教育長
花田委員

成するために」といったご指摘をいただいた。

確かに「知・徳・体を完成させる」という言い方は今まで聞いたこともない表現なので、宇津委員が言われる様な表現の方が良いと思う。学校教育課はよろしいか。

はい。

それでは訂正をお願いします。

No.7の学校支援員の配置について。今年は支援員の特別学級関係の研修をされたと思うが、これは今までになかったことか。

森脇課長

ここ2年はやっている。そういうことをここに書いた方がいいか。

花田委員

書くべきかどうかは私には分からないが、前はやっていなかったのなら、絶対にこれから色々な子が増えてきて必要なことだと思うので、やっていることは評価できることだと思う。

石本教育長

評価いただけることは積極的に挙げてほしい。特に事業名が「学校支援員の充実」なので、特にそういった研修をやったことは大事なことだと思う。追記をお願いします。

昨年からやっているのか。

森脇課長
石本教育長
藤本委員

一昨年からである。

一昨年からの実績を踏まえて追記をお願いします。

No.2について。公立幼稚園の集約化ということで、1番最後のところに事業のまとめということで検討を行っていくと書いてあるが、これはもちろんそのとおりだと思う。少しずつ先が見えているのか、それとも中々場所的に難しいのか。

石本教育長

そのあたりでいうと色々候補地があったが、例えば浅井町のJTの跡地や原井小学校の跡地などあったが、そこらは市が別のことに使いたいということで次の使い方が決まってしまった。旧警察署の跡地についても建物をそのまま残して市の分庁舎として使うといった方向性が出てきた。そうすると今まで候補地として挙げていた所でいうと限られる。もう少し市の内部で方向性が出たら当然教育委員会で諮って承諾をもらわなければいけないことなので、そういった手続きを取らせていただこうと思っている。

藤本委員

なぜ尋ねるかというのと、よく聞かれるのでその時に全然分からないというのも答え方の1つであり、それより少し踏み込んだ様な答え方をするのも必要かもしれないので、敢えて尋ねた。そこまでのことを私は決して言わないが、中々候補地として選ぶ所が

	色々な用途で向いているといったこと、ぼかすところはぼかして、何も分からないのはいかがかと思ひ尋ねた。記述については問題ない。
花田委員	No. 4 について。27 年度の実績の書きぶりで、他の所では何月何日に何回やって、参加者が何人という様に詳しく書かれているが、ここは「取り組んだ」とか「推進した」とかで、いつ何回どの様な形でやったかということが書いてあった方がもっと魅力があるのではないかと思う。こういう社会教育の項目ではよくあるが、数字で表せることがあれば出した方がいいと思う。
山根課長	他の項目が具体的に書かれているがここだけ抽象的な書き方がされているので、具体的に日付や参加者数、内容は書いてあるがそのあたりを修正したいと思う。
石本教育長	生涯学習課でよろしくお願ひしたい。具体的な数字等を追記する。
金本委員	目標達成度について。ふるまい向上について目標数値の公民館数は 16 館だが、やっている館が少なくトーンダウンしている様な感じがする。
山根課長	公民館事業でいうと県のふるまい向上事業があるが、それをここで挙げているのがだいたい 4 館、ここでは実施している。この事業としてやっているということで、通常の公民館の子ども対象の事業でもそういったことは当然取り入れる様なことはしており、その事業として挙げるということで、事業費が付くもの、そういったことではこの 4 公民館が具体的にはやっているということである。
石本教育長	27 年度は資料では 5 館になっているが。
山根課長	ふるまい事業の実施でいけば 4 館である。申し訳ない。
宇津委員	No. 24 では会場公民館が 5 館あるが、これは良いのか。
山本部長	通学合宿が県の事業か。
山根課長	ふるまい事業が県の事業である。
山本部長	その中に通学合宿が入っているのか。
山根課長	通学合宿では内容的にふるまいに関することも行う。
山本部長	この 4 館は通学合宿の数も入っているのか。
山根課長	ふるまい事業を実施したのが 4 館で、通学合宿を実施したのが 5 館であるが。確認したい。
石本教育長	これでは少し分からないので整理をしておいてほしい。
山根課長	はい。

宇津委員	No. 10 について。教育委員会の評価で、2 行目の「事務の効率化に増して新たな事務が発生しており」とあるが、その次の行の「子どもと向き合う時間を十分に確保するまでには」で「る」が抜けているので修正してほしい。それと、「新たな事業が発生しており」とあるが、効率化を狙って共同実施をしているにもかかわらず新しい事務が発生して時間が取れなくなっているのでは、せっかくの取組が功を成していない気がする。
森脇課長	共同実施により新たな事務が発生しているというわけではなく、調査物が増えたり、色々な事務が増えているということで効率化すればすれども次から次へと増えているということである。
石本教育長	確かに新たな事務が何かということが、例えば新たな調査物とか1 つでも例があったら分かりやすいかもしれない。表現を考えてみてほしい。それと下のところで「る」が抜けているということなので、修正をお願いしたい。
各委員	それでは No. 12 までは以上でよろしいか。
石本教育長	特になし。
藤本委員	それでは No. 13 から No. 23 までで何かあるか。
	No. 20 について。学校統合計画について、「次期学校統合計画策定を進めていく」と書いてあるが、これはなかなかシビアな問題なので、具体的なことを入れるわけにはいかないと思う。これは当然検討委員会等に諮問をして検討いただくといった流れになるか。
石本教育長	そうである。今年度中に審議会に諮問する。
藤本委員	諮問する内容は事前に私たちにも示してもらえるのか。
小林係長	教育委員会として諮問をするので、当然教育委員会に諮ることになる。
藤本委員	全然知らなかったということにはならないか。
小林係長	そういったことはない。
藤本委員	シビアな内容なので、慎重さを持たなければいけないと思う。
	もう1 つ、No. 23 について。学校給食施設の統合について、これも以前から色々と指摘もあつたり、難しい面もあつたりということで今日まで来ているが、これも最後に書いてある様に「当面の間、様子を見る」ことを続ける以外は策が見いだせないのかと思う。私もある方からこのことを聞かれてぼやっとしたことを言っているが、地産地消もなかなか難しいということで話はしている。そういう方向でここに書いてある様な状況のところをまた聞

	<p>かれたときにこちらからは言わないが、聞かれたらお答えするというので、よろしいか。</p>
石本教育長	<p>今年の3月の時に当面2年から3年は様子を見るということで説明をしているので、2年間様子を見て協議も検討も何もしないのかと言われれば、一方では色々な検討をしていかなければいけないと思う。</p>
藤本委員	<p>また運動会等に行くとき色々聞かれるので、その時にどこまで答えておけばいいのかということを考えていた。</p>
石本教育長	<p>実は今日、直接会っていないが議員が来られて、9月の一般質問の時に地産地消絡みで学校給食センターとしてどういった食材を買い付ける様に道筋を立てるか、そのあたりの方向性を質問される様である。森下分室長と相談する。</p>
藤本委員	<p>運動会は私が行くので、知っている人がたくさんいて色々聞かれる。</p>
石本教育長 宇津委員	<p>学校給食に1番関心があるのは確かに弥栄と三隅だと思う。 No. 20について。教育委員会の評価のところ「今後は、今後の児童」と2度「今後」がなくてもいいのではないかと。「今後は児童生徒の減少」でも良いのではないかと。</p>
森脇課長 石本教育長	<p>はい。 No. 19について。27年度の実績に要保護・準用保護の件数が挙がっているが、指標にされるのが何割か、何%といった数字をよく聞かれることが多い。今中学校で約17%、小学校が約15%、その辺の数字を入れた方が分かりやすいと思うので、検討をお願いしたい。</p>
森脇課長 花田委員	<p>はい。 No. 15とNo. 28について。学校教育課は中学生まで、青少年サポートセンターは小中学生が居場所を利用している。ここは年齢がもう少し上まで利用できるのか。</p>
長見所長 花田委員	<p>一応40歳まで利用可能である。 例えば中学校で不登校等の相談をしていた家族が、高校に上がった時にやり取りしていたその情報は必ず両方が持っているのかどうか。具体的に私が、中学校を卒業して高校になって病気を発病して病院に入院してしまったという子と関わっているが、その子のことは知られているのかなということも不思議で、そういった情報はどうなっているのか。</p>
長見所長	<p>中学3年生の時の進路についてどうなのかということは青サ</p>

ポの相談員も気にしているので、中学3年生で進学しないでそのまま引きこもりになる様な子がいるかどうかは今の段階から3年生については特に、どういう風にされるかということは学校と連携して、高校へ行かずにどことも、学校との繋がりが途切れた時がなかなか繋がる場所がないので、できれば中学のうちから繋がりたいという形で中学校とは連携を取らせていただいている。

高校に進学された方についても市内の高校と、それから江津の高校、益田の高校、益田高校以外の益田翔陽高校と私立の高校についてはこちらの方から学校訪問を年度が変わった段階で5月には訪問させていただき、何か変わったことがあれば教えてほしいという形で常に情報交換できる様な形で連携を取っている。

益田と江津に関してはなかなか行けないが、1学期毎には養護の先生とは連携を取れる形なるべく変わったことがあれば連絡を取れる様にしている。

森脇課長

中学までのところで不登校等ある子どもについては夏の学校訪問を一緒に行くので情報は共有されているが、ただ高校でそういう風なことになった方についてはこちらから分からなかったということになると思う。

石本教育長

中学校での情報は高校に進学した子については100%きちんと繋がっているということか。

森脇課長

そうである。その後どうなったかということはお互いで情報共有している。高校でそういう風になった子どもがいるが、中学の時はどうだったかという問い合わせがあったりもする。

例えば高校の相談員がいるが、市にもその情報を知らせにいらっしやる。ただその高校の連絡調整員の方は西部に1人なのでしょっちゅう来て、ものすごく動いているという感じは私は思っていない。

宇津委員

高校に行くと小学校、中学校の様にきめ細かさが少し足りない様に思う。少し大雑把の様に感じる。私立高校だと割ときめ細かく対応しているのが現状である。公立高校は少し大雑把なところがある様に思う。本当はそうであってはならないと思う。

花田委員

言い方はあるが、ほったらかされている感じがする。何をしているのかという様な子がたくさんいる。基本的には高校が対応していくということか。

長見所長

全日制の高校はどちらかというと高校の方が関わっていると

思うが、ただ定時制とか通信に転学という様な状況になれば結構昼間が半日空いていたりとか、通信だから週に2日しか普通に学校に授業がある日がなかったりということがあるので、結構その辺については比較的浜高の定時制、特に中間部、それから通信とはなるべく連携を取らせていただいて気になる生徒、特に入ったが、全然学校に行けていないといったことをお互いに情報を共有しながらどういう風に対応するかとか、学校はその辺で訪問は難しかったりするので、青サポの相談員が訪問できる部分は力を入れて訪問させていただきましようかといった様な連携は取らせていただいている。

石本教育長

No. 13 から No. 23 のところで他にお気付きの点はないか。

No. 16 の小規模高等学校交流事業は自治区をまたいではやっていないか。自治区の中だけか。

森脇課長

今のところは自治区の中でということが中心だった。例えば佐野小はすごくやっていたが、今は自治区の中だけになっている。弥栄とか旭だと自治区の中でも人数が限られているので、その集団での活動ということになると違う所と交流しないといけなかなということが課題かなと思っている。

石本教育長

この事業はそもそも、例えば旧浜田の場合、佐野小学校とか上府小学校、後野小学校の様な小規模校があったので、その学校毎に交流しましょうというのが元々の趣旨だったと思う。弥栄や旭はもう1校しかなく、この交流というのは自治区内でできないので、自治区を超えてということになる。それが評価の1番下のところに「小規模校の自治区間を超えた交流を検討する必要がある。」と書いてある。繋がるならいいが。

森脇課長
宇津委員

今浜田自治区は小規模校がないのか。

上府小学校もなくなったので、小規模校はない。

教育委員会の評価のところで、2行目の「学習意欲の向上を図られた。」とあるが、「学習意欲の向上が図られた。」が正しいのではないか。

石本教育長
石本教育長
各委員

そちらが正しい。

No. 23 まではこれでよろしいか。

特になし。

石本教育長

No. 24 から No. 34 まで、ここは生涯学習、家庭学習の関係で家庭学習や地域との交流、そういったところだがお気付きの点はあるか。

金本委員	No, 24 の通学合宿について。5 箇所実績があるが、三隅地区がない。以前は白砂公民館がやっていたが、今はやっていないのでなぜ止めたのか聞いてみたが、やはり手伝っていただく方が高齢になり、地域的にも辺鄙な所で歩いてこられるのも難しいと聞いた。白砂で 10 年やったが限界だということで、止めることになったと聞き、三隅でも 1 箇所くらいどこか手を挙げるところはないのかと聞いてみたが、なかなか主事の方も難しいと言われた。
山根課長	予算的にはもう少し多くの所でできる予算にしているが、なかなか 2 泊 3 日にしても地域の方の協力体制が必要であり、非常に難しいところがあるのではないかと考えている。
金本委員	やっってもらう方向で公民館には話しているのか。
山根課長	毎年度事業説明の時に色々とお願いをしたりするが、予定のない所がある。今までやっていたが、止めるという所もある。
石本教育長	公民館が次年度の年間計画を立てるのはいつ頃か。
山根課長	この事業は当初 4 月に説明をして、それからやりますということをやってもらう。
石本教育長	年間計画を決める時ではなく、その後でもいいということか。
山根課長	そうである。
石本教育長	教育委員会から積極的に実施をしてもらう様な働きかけをしなければ。
	確かに 3 世代交流とこの通学合宿は子育て教育の大きな柱にしている。
山根課長	3 世代交流を希望する所は多い。
石本教育長	事業としては 3 世代交流はやりやすい。
	5 年間の評価で今後も継続的に市内の各所で実践していくということになっているが、教育委員会としての強い働きかけの部分でどういう様な取組をしていくのか一言書いておいてほしい。
	せめて 10 箇所くらいはやってほしい。1 番多かった時でどのくらいあったか。
山根課長	6 箇所くらいだったと思う。
石本教育長	有福が昔やっていたと思う。
山根課長	有福が国府小学校である。
宇津委員	5 箇所のうちで 3 箇所は県大生の支援があり、あと 2 箇所が支援を受けていないということだと思う。白砂公民館の話では支援をしていただく方が確保できないと難しいということなので、県大生の協力が得られるかどうかが大いではないかと思う。

石本教育長	県大生の支援というのは BBS というサークルがまとめてやってくれていたが、今もそうなのか。
山根課長	そうである。
石本教育長	県大生の参加者は同じ団体なのか。
山根課長	大体同じである。
石本教育長	1つの団体で全てやろうとすると大変かもしれない。
花田委員	県大生と地元の方が一緒にやっているのか。
山根課長	そうである。大体地域の方も食事の時や色々なことでお世話になっている。
石本教育長	もう少し拡充できる様をお願いしたい。
金本委員	No. 29 と No. 30 の間に国際理解に向けた交流の推進がないがよいのか。
石本教育長	国際理解に向けた交流の推進というのはこの 5 年間全然取組をしていないか。
小林係長	平成 26 年から削除した。中国、韓国との国際交流を止めた年度から当面無期延期になったことにより、点検の評価の項目から削ってある。
石本教育長	5 年の評価ということでそれを載せて、最初の 1 年 2 年分の状況、現状について載せておく必要はないか。
小林係長	5 年間の評価なので、そういうことになると思う。
金本委員	今後のことについても。
石本教育長	今までと同じ様な形でやれば、難しいと思う。
金本委員	違う何らかの形で国際交流は必要だと思う。
石本教育長	新しい計画の中にはあるか。
山根課長	入っていない。
小林係長	国際交流はないが、英語教育の必要性で学校教育に入ってきたのではないか。
森脇課長	外国語活動の充実のことか。
小林係長	総合振興計画であった。
石本教育長	英語教育と国際交流は少し違う。 どこかの項で国際理解については取り上げなくてはいけないと思う。県の教育ビジョン 21 には当然載っているもので、市も載せなければ。 次の計画は考えることにして、とりあえずこれは 5 年間の反省なので、シートを付け加えてほしい。担当は生涯学習課なので追加をお願いしたい。

	<p>直接この評価表には載っていないが、No. 31 のところで中央図書館の子どもの本の貸出数が全体的に減って目標の 25,000 に達しなかったという評価になるが、中央図書館の子どもの貸出が伸びなかった理由はあるか。</p>
島田館長	<p>1 番大きかったのが、システムの更新による休館が 3 週間あったこと。3 週間だと入館者が大体 15,000 人でそのうち 6 割から 7 割の人が利用するので、大体 10,000 人になる。10,000 人だとすると、子どもの利用は大体 4 割になるので、4,000 人、その分ちょうど減っている。約 24,000 人に本来だとなっていたはずが、4 割分の 4,000 人がなかったので 20,000 人に留まった。</p>
石本教育長	<p>3 週間で 4,000 人だったら、1 年間で 40,000 人くらい来る。 その辺の理由が説明できればいい。 その他はよろしいか。 No. 27 の子どもの居場所づくりの推進について、27 年度に急に新規が増えたのはなぜか。</p>
山根課長	<p>だんだん増えてきてはいたが、急激に増えた。</p>
石本教育長	<p>新たな補助制度ができたとかはあるか。</p>
山根課長	<p>そういったことはない。</p>
石本教育長	<p>その他はよいか。</p>
各委員	<p>特になし。</p>
石本教育長	<p>それでは No. 35 からスポーツ関係になるが、No. 35 から No. 39 までで何かあるか。</p>
宇津委員	<p>スポーツ施設の補修について、大変な額を要するので心配なところがあるが、当面これが大きいなど、どこを想定しているか。</p>
山根課長	<p>野球場や陸上競技場はもともと老朽化しており、地盤沈下も進んでいるので、そのあたりでかなりお金をかけないといけない状況である。ただ地盤沈下の問題自体があるので、根本的な大改修はなかなか難しいと思っている。最低限危険性がない様な改修をしていきたいと思っている。今この 2 つが大きなお金を要する。</p>
石本教育長	<p>今後の体育施設のあり方についても審議会で検討していただいているので、その方向性が改修や新設、向こう 10 年以上の計画になるかと思う。なかなか陸上競技場も地盤沈下が進んでいるので他の所に持っていきたいとも思うが、それを行うと莫大な経費がかかる。そうすると非現実的なことになる。今のところは沈下はするが、それをなんとか抑える様な形で 10 年、20 年は引き続き使わなければいけないのではないかという話にもなる。だか</p>

らといって将来財政的に一気に良くなるということも想像しがたいので、そうすれば陸上競技場が浜田にもあり三隅にもあり旭にもグラウンドがあり、そういったものを最終的には集約するといった話になる。これをまた集約するとなると本当にできるのかという問題にもなる。利用者が危ない目にあったり、記録が出ないグラウンドなので使えないと言われたら寂しいものもある。陸上などは端的にその方向でだんだん大きな大会が浜田では開かれなくなっている。記録が出ないということは全国大会に行けない。

宇津委員
石本教育長
岡田室長

益田のグラウンドはどうなのか。

益田は記録の出る良い陸上競技場である。

沈下していくので、以前は浜田市の陸上競技場は1種で通っていたが今は4種なので、もう大きい大会を持ってくること自体ができない。地元の大会を細々と続けるしかない。

石本教育長
各委員
石本教育長

それではスポーツのところは以上でよいか。

特になし。

それでは、No. 40 から No. 49 まで文化についてだがお気付きの点はあるか。

ざっと見て、文化・芸術のところは詳しく書いてあるが、文化財のところは簡単に書いてある。

宇津委員

No. 44 について。教育委員会の評価の下2行、未だ市指定文化財が旭・弥栄の2自治区についてはないということが気になった。指定に向けて調査等していくと思うが、旧旭町、旧弥栄村には町指定のものが現にあったかと思う。そのあたりの詳しいことが分からないが、条件が満たされないとそれを即市の指定というわけにはいかないかもしれないが。

渡邊課長
石本教育長

町指定のものが元々なかった。

合併の時に町指定のものは無条件で市指定になっていた。あれば市指定にしていたはず。

渡邊課長
石本教育長
大崎分室長
渡邊課長

その辺がかなり自治区で温度差がある。

金城は銘木が多い。

議会で、銘木の指定解除をした、倒れたばかり報告している。

色々と指定になっていないが、良いものがないわけではないので指定がないという状態を何とかしたい。

藤本委員

合併前は、自治区でいえば例えばあるものを町なら町で指定したいという報告を出すと、初めに所有者の同意が必要になる。そ

こで1つつまづきがあつて、次に所有者の方から維持管理や方策について示してほしいといわれる。それを持っていくと中々煩わしいと感じることもあり、結局指定をしていないという現実もある。何もないというわけではないが、我々が見ればこれは、というものもある。

石本教育長　　そういった調査を進めるためにもスタッフを置かなければいけない。来年学芸員を1人採用する。今学芸員が3人だが、4人になる。歴史館を造るのに手を取られるかもしれないが、思いとしてはその辺に手を付けたいという思いがある。

渡邊課長　　やはり他の評価表と比べて文化財のところがすっきりしすぎて気になる。例えばNo.48の浜田城の啓発は、昨年開府400年のイベントをやったので、もう少し詳しく書いたら何となく見込みが充実するかと思う。

石本教育長　　はい。実際やったわけなので。

石本教育長　　中々良いイベントをしているので、やったことはもう少し書いてほしい。

藤本委員　　茶道同好会があるが、あそこも一昨年御便殿で茶会をされて、私も参加した。ここに書かれているのはあくまで市が主催してやったものになるが。

石本教育長　　昨年は止めて指摘を受けた覚えがある。

渡邊課長　　資料館の関係があつて今御便殿は使えない。

石本教育長　　文化のところで他にお気付きの点はないか。

各委員　　特になし。

石本教育長　　それではNo.1からNo.49までご指摘のあったところは事務局も含め各担当課で整理したいと思う。最終的な修正したものについては委員方に送付させていただく。最終形を作るまでにはあと2週間くらい時間があるか。

小林係長　　はい。今後の予定でいくと、9月に総務文教委員会に出す。

石本教育長　　それでは修正したものをまた委員方に送らせていただくので、目を通していただき、さらに直した方がいいところがあれば事務局にご連絡いただきたい。

小林係長　　最後に目標達成度、数字目標について。先ほどふるまい向上について5館が4館と修正があつたが、他にお気付きの点はあるか。

小林係長　　結局22項目くらいあると思うが、22項目のうち目標を達成できたのはいくつか。

小林係長　　その集計はしていない。

石本教育長	<p>4分の3くらいは達成しているのではないか。 ざっと見たところ 22 項目のうち 13 項目は達成している。半分では寂しい。3分の2くらいは達成してほしい。 ここについても含めてお気付きの点があればまたお知らせいただきたい。</p>
小林係長	<p>修正したものをいつ頃に送るか。</p>
石本教育長	<p>来週中には発送したい。 送る時にまたいつまでに訂正のご連絡をくださいといった文章を付けるので、お手数をおかけするがよろしく願いしたい。 資料 2 についてはお持ち帰りいただいてまた目を通していただければと思う。</p>

(2) 教育委員会学校訪問について (資料 3)

小林係長	<p>教育委員会の学校訪問についてだが、幼稚園のことである。1学期は小中学校へ行ったので、次に幼稚園を2学期のところでさせていただきたいと思う。計画案についてはお配りしている内容のとおりである。基本的には昨年度と中身は変更していない。意見交換についても幅広く色々とお聞きになりたいことをお話しいただき、お聞きいただくということの意見交換を考えている。 実施期間については10月の中旬あたりを予定している。1日あたり午前中で2園ということになるので、2日プラス予備日ということで1日程度の日程を確保していただければと思う。時期としては10月11日(火)の週からその翌週10月17日から21日までのところで3日間程度でさせていただけたらと思う。 この場である程度候補日をお話してご都合を伺ってもよろしいか。それともまた持ち帰りで改めて確認した方がよろしいか。</p>
藤本委員	<p>今の方がいいだろう。</p>
宇津委員	<p>12日は難しい。</p>
石本教育長	<p>11日、13日は難しい。</p>
花田委員	<p>17日、18日は難しい。</p>
金本委員	<p>19日は小体連の体操大会がある。</p>
石本教育長	<p>19日は開会式が終わってから1園なら行けるかもしれない。</p>
石本教育長	<p>20日、21日もいない。14日と19日しか空いていないので、14日の午前中に2園にするか。 10月24日から10月28日は空いている。翌週にするか。この辺は次の定例教育委員会になるか。</p>

小林係長 石本教育長	はい。また、生活発表会はまだ先なので可能だと思う。 午前中幼稚園に行って、午後から定例教育委員会をしてもいい。
小林係長 石本教育長 委員方 石本教育長	14日、24日、25日で予備日も含めていかがか。 私は良いが、委員方はいかがか。 大丈夫である。 あまり離れてもよくないので、14日はなしにして24日と25日で4園訪問にするか。
小林係長 石本教育長 小林係長 石本教育長 各委員 小林係長	予備日として14日を設定しても良いか。 相手方に聞いて都合が悪かったら14日にとということか。 そうである。 それでは14日、24日、25日の午前中でよろしいか。 了解。 意見交換の内容として新たな項目やお聞きしたい内容があれば事前に園の方に伝えたいと思うので、またお知らせいただけたらと思う。
石本教育長	また来月までのところで意見交換のテーマがあればお知らせいただけたらと思う。
小林係長	それで間に合うか。 大丈夫である。

4 その他

(1) 運動会の日程について（資料10）

小林係長	前回の定例委員会の後に調整いただいた結果を記載している。出席のところを確認いただきたい。裏面が日付順毎の出席予定となっている。9月10日の出席のところ为空欄になっているが、表の教育長と金本委員でそれぞれ変更はない。順延等になって予備日と当初計画していた学校とが重なった場合は改めて事務局管理職を含めて調整させていただきたいと思う。今回は特に予備日の出席までは入れていないが、順延になった場合はこういった形で入ってくるということでご承知いただけたらと思う。
金本委員 小林係長	10日が書いていないが。 10日は記載漏れである。今福小が教育長、三隅小が金本委員である。今回は日付の関係もあつてか、分散というか平準化というか管理職の皆さんの出席がほとんどない状態になっているが、

先ほど言いました予備日での開催になった場合は急遽お願いを
することもあろうかと思うので、その点よろしくお願いしたい。

もし変更になってご都合のつかない日があれば教えていただ
けたらと思う。

石本教育長

急にご都合が悪い等あればご連絡いただけたらと思う。

次回定例会日程

定例会 9月28日(水) 13時30分から 浜田公民館第2研修室

16:03 終了